

日中生態都市事業 浙江省金華市浦江県考察団 (2019. 9/1—9/4) 概略報告

(公社)日本技術士会近畿本部登録中国研究会会長 掛田健二

2019.9.9

(一社)国際3R研究院(院長 立命館大周璋生教授)主催の日中生態都市事業浦江県考察団は、張沖秘書長、日本ビジネスインテリジェンス協会 5名(80代3、70・60代後半各1名)、掛田、現地参加中国人10名が参加、浦江県仙華国際会議中心、浦江県役所で9/1—9/4に開催。浦江県は周教授と張沖秘書長の故郷で、有名進学中学卒、生誕家屋は現存。張沖 加百列(ガンバル)生態科技有限公司董事長・浙江省特別専門家・日中発展促進会副会長は、周研究室博士(国際環境論)。浦江県帰国10年で廃棄物収集・処理・街路銘清掃他の環境整備面を起業し、浦江県政府の大きな信頼を得ている。考察団は彼の働きかけによる。

浦江(Pujian)県は浙江省の中央部にあり、杭州から高速道路で1.2時間、上海から3時間。300km²の広さに30万人が住む、標高500mの盆地で水が豊富で山紫水明、1800年の歴史がある。主要産業はクリスタルガラス製造(人民大会堂大シャンデリア製作)、南京錠(スマート錠)、キルティングは全国シェア60%。5年間の行政努力で、中国初の「生態文明建設村」「美しい農村」「農村家庭ごみ分類・再利用」モデル都市を達成。「小さな村の包括環境改善」は江蘇省のモデルになった。町と農村に散乱ごみは無く、川・湖に不法投棄ごみは無く、燃えるごみは全量堆肥化・農地還元。ガラス製造排水に汚れた川は、清流に戻った。公園緑地大幅増加、5kmの散策路完成等で、国連環境賞地域賞を受賞した。

環境改善経緯：2万軒を超える小規模硝子製造から排出される白色汚泥水は浦陽川を白濁させ、各種ごみの投棄も多く、下流の杭州市から苦情が絶えなかった。前県書記は共産党の全面バックアップの元、5年間かけて、硝子製造企業を2000社に絞り、工業団地を4つに集約、排水処理施設を整備し、SS、CODを環境基準値以下に抑えた。錠前工場も団地化、下水処理場も整備した。

ごみの完全収集・堆肥化、道路・湖沼河川ごみ清掃は、共産党員証再登録をかけて共産党員が率先垂範。農家は燃えるごみと燃えないごみをプラ製定型大型ゴミ箱に直接投入、ごみ収集は農村用小型3輪車で収集できる3km範囲に限定、燃えるごみは14カ所の堆肥施設に搬入。数日間攪拌加熱発酵後に、堆肥貯蔵所で熟成さす。農家が引取りに来所し、自身の堆肥と混合して特産のブドウなどに施肥する。特産のメロンには熟成品質が未達ゆえ、肥料施肥改善し施肥を目標に。燃えないごみは新埋立て地に投入。このモデルは浙江省の農村部に拡大中。都市部ではパッカー車収集、街路清掃車利用。張沖董事長が10年前に日本のシステムを現地化した提案を、浦江県が採用し運用拡大し、加百列会社が全面受託。

9月2日の見学は、クリスタルガラス展示館、浦江県翠湖・治水館(浦陽江5年間の環境改善実績)、中部水晶園(硝子加工団地)、農村ごみ堆肥工場、上山遺跡(米栽培跡)、江南第1家(鄭氏旧家)、旧農村街並み、美しい農村モデル区(隠れ高級宿と民宿群)と盛り沢山。「豊かな農村は3階建てを2棟保有、大都市は高層マンション1戸」。都市と農村のごみ無し川・湖、建物高さを揃えたきれいな街路、工業団地群、新4車線道路にビックリ。

9月3日(火)の浦江県幹部(着任1年目の38才女性県長、4名の副県長、担当部長)への日本側提案、中国参加者提案と議論。日本からの投資・技術指導、硝子製造汚泥減容(現場確認済み)、医食同源の産業化を議論。午後からは個別案件対話。周教授と張董事長から、小規模都市のコンサルの要請があり、継続検討を約束した。写真は右から掛田、松井技術士、程県書記、周教授、堀内静大客員教授、張沖董事長、盧環境学博士。(終)

